

令和6年度 学校運営に関する学校評価を受けて

東根市立第三中学校
校長 竹 内 齊

本校教育活動（学校経営の重点項目など）に対する保護者アンケート及び生徒アンケートの結果を受けて、本校学校運営についての自己評価を行いましたのでお知らせいたします。お寄せいただいた御意見を、次年度の教育活動に生かすとともに、本校教育活動のさらなる充実を図ってまいります。ご協力ありがとうございました。

◆視点1：学習・授業にかかわること

4 よくあてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1ほとんどあてはまらない

※保護者・生徒とも無記名での回答です。

数字 = 上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容（生徒にも保護者と同じ内容の問いかけをしています。）	4	3	2	1	4と3の割合
1	お子さんは、授業に集中して取り組むことができると言っている。	17 36	60 55	20 9	3 0	77 91
2	お子さんは、授業中自分の考えを発表したり、互いの意見を交換したりして、自分の考えを深めることができたと言っている。	20 46	54 41	23 12	3 1	74 87
3	お子さんは、授業がわかりやすく、意欲的に取り組めると言っている。	14 35	52 53	33 12	1 0	66 88
4	お子さんは、家庭学習に必要感を感じて取り組み、学校での学習に活かすことができていると思う。	13 29	42 45	35 23	10 3	55 74

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 昨年度に導入された電子黒板など、日常的なICTの活用による授業づくりの実践。
- ・ 生徒の要望を把握し、習熟度別の授業の取り組みの実施(数学・英語など)
- ・ 自ら学ぶ主体性を育成するための興味・関心を高める教材の吟味と課題解決の見通しが持てる指導過程の工夫。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 生徒は、授業に集中して取り組んでいると考えており、意見の交流を通して学びを深めることができていると感じている。
- ・ 授業がわかりやすく意欲的に取り組んでいる生徒の割合は高いが、学校での学習を活かし、必要感を感じて家庭学習に取り組むことができていないと感じている。
- ・ 授業や家庭学習への取り組みについて、生徒の数値よりも保護者の数値が大きく下降しており、授業と家庭学習とのつながりを意識して指導する必要がある。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、一般的な授業態度の評価と混同して捉えている保護者もあり、学校からのより丁寧な説明が必要である。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒にとって必要感のある課題設定と興味・関心を引く教材研究を心掛け、生徒が自分事として学べる授業づくりを推進していきます。
- ・ 指導と評価の一体化を図る授業改善により教師の指導力向上に力を入れていきます。そのために、研修と校内研究の充実を図り「授業を核にした学校づくり・学校経営」を推進していきます。
- ・ わからないこと、できないことをそのままにせず、解決するまで取り組めるように教師がコーディネートする授業づくりを心掛けていきます。
- ・ 学習の成果や様子を保護者と共有し、学校と家庭の連携を図ることで、生徒の学びを支援できるようにします。1月の学校だよりで学習評価について具体的な説明を記載しましたので、確認の上、御理解をお願いいたします。

◆視点2：学校生活等にかかわること

上段：保護者（％）

下段：生徒（％）

問	質 問 内 容	4	3	2	1	4と3の割合
5	お子さんは、学校に楽しく登校している。	58	30	9	3	88
		67	26	6	1	93
6	お子さんの学級は、よさが認められ居心地がよく、思いやりのある友だちが多いと思う。	47	33	17	3	80
		73	21	6	0	94
7	お子さんは、学級の係活動や専門委員会、生徒会活動に積極的に取り組んでいると思う。	56	30	11	3	86
		65	32	3	0	97
8	お子さんは、部活動や外部での活動、その他の活動に意欲的に取り組んでいると思う。	58	30	5	7	88
		64	23	7	6	87
9	お子さんは、学校のきまりや服装、時間等をきちんと守り生活していると思う。	53	37	8	2	90
		74	22	4	0	96

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 生徒会活動や学校行事を「生徒が自分たちで企画し、自分たちで運営する」ことによる達成感や自己有用感を味わえるような指導と支援。
- ・ 定期的な教育相談、自己生活アンケートの実施とその記述内容に対する即時対応を心がけた生徒に寄り添った指導。
- ・ 「部活動方針」の啓発及び方針（国・県・市・本校）に基づく活動の実践と、部活動の地域以降化に伴う改革。
- ・ 教職員全員で生徒を見守る温かい生徒指導の構築。
- ・ 市職員の年間軽装化通知や暑熱対策を考慮した生徒会起案による服装のきまりの見直し。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ ほぼすべての項目で高い数値となっている。アフターコロナに伴った新しい形や制限から解放された学校行事、生徒会活動、学級活動により、心豊かに前向きに学校生活を過ごせている。
- ・ 楽しく学校に登校することができていると感じている生徒、保護者の割合が高いことが、学校として大きな励みになっている。一方で、楽しく登校することができていないと感じている生徒と保護者もいる。
- ・ 部活動は昨年度から任意加入制となり、部活動に所属していない生徒が増加している。その反面、外部のクラブチームに所属する生徒の活躍があったり、部活動に所属しない生徒が部活動時間帯に本校のラーニングセンター（スイート）で学習したりするなど、生徒の自主的な姿も見受けられた。
- ・ 暑熱対策として服装の見直しを生徒会で考えたこともあり、生徒は適切な判断できまりを守ろうとしている。きまりや時間を守る等の規律面に関しては数値が高いが、生徒が安全・安心して生活していくためには、さらに伸ばしていく必要がある。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒会活動や学級活動に力を入れ、生徒自らが自分たちの学校をよりよくしていこうとする自治力の育成に努めます。そのため、企画・立案から生徒自らが行えるよう話し合いや活動の時間を確保するため、教育課程編成の工夫を行います。また、その生徒の取り組みの様子を保護者に適時発信し、理解いただくことにも努めます。
- ・ 安全・安心な環境を作るため、教師も一枚岩の指導で当たっていけるよう、気づいたことについての細やかな情報交換や適宜打ち合わせを持つなど、即時対応に心掛けます。また、生徒一人一人の声にしっかりと耳を傾け、寄り添う気持ちを大切にしていきます。
- ・ 来年度に向けて生徒とともに夏の制服、運動着を見直し、暑熱対策を進めています。生活のきまりについては、今後とも時代にマッチしたものになっているか、適時見直しを行っていきます。
- ・ 部活動改革により、令和8年度には休日部活動地域移行が全面実施となります。市や本校の部活動の方針、それに伴う周知を丁寧に行うとともに、部活動とクラブチームとの連携もより適切に図っていくことを目指します。

問	質 問 内 容	4	3	2	1	4と3 の割合
10	お子さんは、先生方が話をよく聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていると言っている。	33	44	20	3	77
		55	35	9	1	90
11	お子さんは、努力したことやよい点を先生方が認め、正しく評価してくれると言っている。	33	46	18	3	79
		49	45	6	0	94
12	お子さんは、道徳や学級活動、総合や校長講話で、生き方や将来のことについて考えることができたと言っている。	14	55	30	1	69
		46	41	12	1	87
13	お子さんは、家庭での来客や地域の方々に対して、自ら進んであいさつができています。	43	44	13	0	87
		67	30	3	0	97

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 毎月1回の「自己生活アンケート」を通して情報収集に努め、生徒の思いを教職員間で共有し、教育相談を迅速かつ継続的に実施。
- ・ 「いじめ防止基本方針」に基づく指導実践。いじめにつながる言動への組織的対応と家庭との連携を重視（いじめに関する調査の年2回実施）。
- ・ 毎朝の生徒会生活委員会によるあいさつ運動。職員による朝のあいさつ活動。
- ・ 校長講話を実施し、その感想を各学年代表が全校集会で発表。
- ・ 東郷小、高崎小への生徒会役員主体の訪問あいさつ運動の実施。

◇生徒の実態やアンケートの結果より

- ・ 教職員の生徒に対するかわりに肯定的な考えの生徒の割合は非常に高い。保護者にも学校での活躍が伝わるよう、家庭と学校の連携をより緊密に行う必要がある。
- ・ 地域への思いが強い生徒たちであるため、地域に対するあいさつについては、例年高い数値が出ている。また、毎朝のあいさつ運動に取り組んできた結果が少しずつ表れてきた。アフターコロナで様々な制限が解除されたためか、昨年よりもさらに数値が上昇した。
- ・ 進路学習については、1学年から生徒だけでなく、保護者に対しても情報発信を行い、見通しをもって取り組んでいけるよう努める必要がある。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 計画的な教育相談だけでなく、生徒との日常的な対話を通して「思い」や「心配なこと」を積極的に聴き取り、ともに解決にあたっていける関係性を築きます。
- ・ スクールカウンセラーによる個別の面談やカウンセリングだけでなく、全校生や各クラスを対象としたスクールカウンセラーの講話を適切な時期に実施することを通して問題発生 of 未然防止を図っていきます。
- ・ 生徒の「困り感」を家庭と共有し、直接話し合って即時対応をしていきます。年度初めの家庭訪問で保護者と担任がしっかり顔を合わせ、情報共有できる関係を築けるようにします。
- ・ 学校で学んだことが社会でどのように役に立つのかを実感できるよう、職場体験や企業や上級学校への訪問等の学校外での教育活動も重視し、キャリア教育の充実に努めていきます。また、その学びの過程を、保護者にも発信していきます。
- ・ 進路指導の充実に向け、生徒・保護者対象の進路説明会を1学年から計画的に実施していくことを重視していきます。また、山形県公立高校の入試制度が令和8年度入学生より大きく変わるため、生徒、保護者への情報提供を丁寧に行っていきます。
- ・ さらにあいさつの活性化のための方策を生徒会中心で話し合い、あいさつが飛び交う学校で生活することのよさを実感できるようにします。さらに、自分たちの力でよりよい学校をつくり上げたという達成感を味わわせるよう、そのためのプロセスも大切に指導します。

◆視点4：家庭・地域・環境にかかわること

上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質 問 内 容	4	3	2	1	4と3の割合
14	学校（学年・学級）は、家庭や地域に、学校の取り組みや生徒の活躍の様子について、たよりやマ・メール、ホームページ等でよく伝えていると思う。	36	53	11	0	89
		49	48	3	0	97
15	親として、学級通信や学年通信、学校通信等をよく読んでいる方だと思う。	23	47	27	3	70
		46	42	11	1	88
16	学校の教育環境が整備され、子どもは生活しやすいと思う。	42	46	11	1	88
		55	39	6	0	94
17	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できている。	26	33	32	9	59
		39	44	13	4	83
18	お子さんは、スマホやインターネットを利用する時、家庭で決めた約束事（使用時間やフィルタリング等）を守り、適切に利用していると思う。	14	32	35	19	46
		47	33	14	6	80
19	学校行事等について、「アフターコロナ」の時代の中、学校は新しい形を工夫しながら実践できていると思う。	33	53	14	0	86
		44	51	5	0	95
20	学校は、家庭や地域、小学校等と連携し、活動していると思う。	33	55	11	1	88

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 月1回、学校だより「協育」の発行と学校ホームページ更新の日常化。
- ・ 各学年だより、学級だよりの発行。
- ・ 携帯メール連絡網「マメール」による学校の判断事項や協力依頼、生徒たちの活動の様子などの配信、外部団体からの情報のタイムリーな共有。
- ・ 「パワーアップ（生活習慣コントロール）」週間を、定期テスト前の学習強化期間の年4回設定。
- ・ 校医・学校歯科医・学校薬剤師の声を反映した学校保健委員会の実施。
- ・ 県警本部、ICT支援員によるメディアに係る講演会の実施。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ ホームページや携帯メール連絡網「マメール」での情報発信に力を入れたことで、保護者の数値は昨年度よりもさらに数値が上昇している。
- ・ スマートフォンやインターネットの利用について適切に利用していると回答した保護者は半数以下となり、年々数値が小さくなっている。それに対し、生徒は8割以上適切に使用していると考えている。保護者と生徒の捉えに大きなギャップがあることは大きな課題と捉える必要がある。
- ・ アフターコロナの中、昨年度よりも地域公民館へのボランティア活動に積極的に参加する生徒が増加したが、地域とのつながりについてはまだ課題が残る。様々な学校行事を開放してきたが、教育環境、教育資源に恵まれた地域であることを念頭に、より活用できる取り組みが必要である。

【今後の方針や具体策について】

- ・ ホームページの更新を常時行い、生徒の様子を発信できるように努めていきます。携帯メール連絡網「マメール」を活用し、学校からのお知らせも適宜発信していきます。
- ・ アフターコロナの時代、新しい形で生徒たちが地域に貢献していく活動を検討し、公民館行事とも関連付けながらつながりを深めていきます。
- ・ 生活習慣づくりは、メディアコントロールと密接な関係性があります。三中だけでなく、東郷小・高崎小との連携をするため、「三中学校区しこたん校友会」で共通の話題にして指導と啓発を継続していきます。
- ・ メディアとの付き合い方について、警察等と継続して連携し、必要な講話等を企画します。

- ◎ 2月19日(水)に実施しました学校評議員会において、以下のようなご意見も賜りました。

学校評議員会

日時：令和6年2月19日(水) 10:30～11:30

開始前に授業通覧を実施

学校評議員

東郷地区区長協議会長	奥山梅太郎 氏
高崎地区区長協議会長	大江 邦男 氏
東郷公民館長	奥山 茂 氏
高崎公民館長	東海林雅彦 氏
高崎地区婦人会会長	清野 安子 氏
食生活改善推進員	遊佐久美子 氏
東根市立第三中学校 校長	竹内 齊
	教頭 武者 博雄

- ・中学生に地区の行事にボランティアと参加してもらい、一緒に行事に参加してもらったり、高齢者を支えてもらったりした。中学生を地域の人にも知ってもらうことができ、地域と中学生の距離を近づけることができた。地域に係わってほしいので、今後もボランティアに積極的に参加してほしい。
- ・部活動が任意加入制となり、勉強をするなどして自分なりの活動ができるようになっている。体力の数値に関して、今後も気を付けて見て行ってほしい。
- ・全国大会出場の掲示や地区中新人大会の優勝カップも展示されており、運動面で大変素晴らしい成果が見られる。優秀な部活動の成果が伝統的に継続されていて素晴らしい。
- ・情報不足の為に犯罪に及んでいるケースがある。スマホやインターネットの利用について指導を大切にしてください、警察とも連携して行ってほしい。
- ・同じ項目において、生徒より保護者の評価が下落している状況がある。生徒はポジティブにとらえており、学習に対する取組みも向上している。保護者も生徒同様にポジティブにとらえ、生徒をもっと信じてほしい。
- ・校舎の中も整然と整頓されており、生徒が意欲的に生活しているものと考えられる。授業の様子を通覧したが、歌う姿が素晴らしく、卒業式での校歌の歌声が楽しみである。欠席が多かった生徒も立派にしている。